

行事予定 (2009年)

11月10日(火) 第5回常任・第4回全国幹事会、第3回総会
12月15日(火) 第6回常任幹事会

巻頭言

日本臨床検査専門医会
常任幹事 渡邊 卓

最近、ある若手の臨床検査専門医の先生から「他施設の先生方とも情報交換をしたいと思うが、検査関係の学会に行ってもなかなか知り合うチャンスが無い」といったお話をうかがいました。どの分野でもこのような問題は常にあると思いますが、臨床検査に関して言えば、他の分野での経験を経て検査関連のポジションに就かれる先生も多く、着任当初、最も情報が必要な時期に相談相手がいない、といった状況が発生している可能性もあるのではないのでしょうか。私自身、脳神経外科の臨床を約10年、海外での基礎研究約5年の後、縁あって全く畑違いの臨床検査に身を置くことになりましたが、やはり当初、他施設の先生方と知り合う機会は限られていたように思います。私の経験で申しますと、専門医会が主催する Good Laboratory Management 教育セミナーは、こういった時期に、多くの先生方と知り合う良い機会であったと思います。当時は自治医科大学のセミナーハウスに泊して行われたと記憶しておりますが、そこで一緒に作業に取り組んだ先生方とは、その後も親しくさせて頂いております。現在は丸一日のセミナーになっていますが、まだご経験になっておられない先生には、そういった意味でも是非参加されることをお勧め致します。

専門医会ではこの他、春季大会、そして日本臨床検査医学会学術集会時には総会・講演会を開催するなど、臨床検査振興セミナー(旧振興会セミナー)も含めて会員が集うさまざまな機会を提供しております。この機会を有効に活用し、若手の会員、他分野から新たに臨床検査の世界に移って来られた会員などを含め、世代や地域、専門分野を越えた会員間の交流をより一層促進するための工夫ができればと思います。学術的な研鑽や検査を取り巻く諸情勢に関する研修はもちろん重要ですが、会員間の交流促進や情報交換など、いわゆる学会とは少し異なった視点からの企画が行われれば、集会に参加される会員数の増加も期待できるかもしれません。この他、地理的な問題などさまざまな制約があるとは思いますが、会務関係の委員会活動に、新入会員をできるだけ配置するなど一法ではないのでしょうか。新たに入会された会員が専門医会に溶け込むきっかけともなり、また先輩会員との交流を促す効果もあると思います。

会員間の緊密な交流が生まれれば、会員同士の情報交換や連携がより一層、活発化することとなります。また、会員が一丸となることにより、当専門医会が行うさまざまな対外活動に際しても、より強固な底力を発揮することが可能になるものと確信いたします。会員数が少ないことは当会の悩みではありますが、会員が少ないからこそ会員間の密な交流が可能になるともいえます。小粒でもパワフルな専門医会を目指したいものです。

【目次】

- p.1 巻頭言
- p.2 事務局からのお知らせ、平成21年度の行事予定のお知らせ、平成21年度会長・監事選挙のお知らせ、WASPALM関連のお知らせ、第19回日本臨床検査専門医会春季大会報告
- p.3 第26回臨床検査振興セミナー報告、平成21年度第二回(第34回)総会報告、日本臨床検査医学会主催第26回臨床検査専門医認定試験結果、第20回および第21回春季大会について、会費納入について、住所変更所属変更に伴う事務局への通知について
- p.4 第19回日本臨床検査専門医会春季大会総括、標準化における臨床検査専門医の役割
- p.5 日本臨床検査専門医会 第26回臨床検査振興セミナー報告、会員の声：健康な未来を構築するために
- p.6 会員の声、編集後記



シェパード(具満タンより)

JACLaP NEWS 編集室 金子 誠(編集主幹)

〒113-8655 東京都文京区本郷7-3-1 東京大学医学部附属病院 検査部内

TEL: 03-3815-5411 内線 35005/Fax: 03-5689-0495

E-mail: mkaneko-kk@umin.ac.jp

【事務局からのお知らせ】

《会員動向》

2009年10月1日現在数705名、専門医568名

《新入会員》（敬称略）

大山 陽子：鹿児島大学大学院医歯学総合研究科
血管代謝病態解析学

《所属・その他変更》（敬称略）

五十嵐雅彦：旧 山形大学医学部液生病態診断医学 准教授
新 特定医療法人 社団みゆき会病院 診療部長

飛田 規：旧 焼津市立総合病院
新 磐田市立総合病院

《退会会員》（敬称略）

並木 恒夫：日本病理研究所

(2009年8月13日)

菅野 勇：千葉県済生会習志野病院 病理部

(2009年9月7日)

【平成21年度の行事予定のお知らせ】

平成21年度 日本臨床検査専門医会の行事予定をお知らせいたします。

なお変更が生じた場合は、JACLaP WIRE 等でお知らせします。その都度ご確認ください。

平成21年

第5回常任・第4回全国幹事会

11月10日(火) 13時～15時45分

開催場所：山の上ホテル 別館2階 海の間

第3回総会 11月10日(火) 16時～16時40分

開催場所：山の上ホテル 別館2階 海の間

10月2日(金)に開催予定だった第5回常任幹事会は、11月10日(火)に変更になりました。場所も日本臨床検査医学会事務所から山の上ホテルに、また常任幹事会から常任・全国幹事会に変更になっています。

会長・監事選挙の開票が10月になったため、11月10日(火)に臨時総会を開催します。

第6回常任幹事会 12月15日(火)

開催場所：日本臨床検査医学会事務所

【平成21年度会長・監事選挙のお知らせ】

平成21年度日本臨床検査専門医会 会長・監事選挙を以下の要領で実施します。

8月8日(土) 第1回選挙管理委員会(順天堂大学医学部)

8月26日(水) 幹事会および総会での承認

8月31日(月) 立候補・推薦手続き(公示)開始

9月18日(金) 立候補・推薦締切り(公示終了)

10月5日(月) 投票開始

以上は実施済み(終了)。

10月23日(金) 投票締切り(必着)

10月30日(金) 第2回選挙管理委員会(開票)

(日本臨床検査医学会事務所)

平成21年度会長・監事選挙 選挙管理委員

菊池春人(委員長), 狩野有作, 熊坂一成,

東條尚子, 渡邊真一郎

佐藤尚武(オブザーバー)

11月10日(火)開催の常任・全国幹事会および臨時総会に選挙結果を諮る予定。

【WASPALM 関連のお知らせ】

第25回世界病理・臨床検査医学連合学会(XXV World Congress of Pathology and Laboratory Medicine)が、Royal College of Australasia の年次集会 Pathology Update 2009 と共催でオーストラリアのシドニー(Sydney Convention and Exhibition Centre)にて2009年3月13日～15日の会期で開催されました。参加者総数1,300名で、(解剖)病理学、血液学、微生物学など幅広い領域で、活発な意見交換がなされました。日本からの参加総数は8名で、招請演者3名、一般演題発表1名でした。展示は40あまりのブースが設営され盛況でした。

次回(第26回)は2011年10月19～23日に The Annual Meeting of American Society for Clinical Pathology (ASCP) と共催で、米国のラスベガス(Fontainebleau Hotel)にて開催されます。会長は Michael Oellerich で、ASCP の会長は Lee H. Hilborne です。

次々回(第27回)は2013年6月に Canadian Association of Pathologists(CAP)、Canadian Society of Clinical Chemists(CSCC)および Canadian Association of Medical Biochemists(CAMB)の Joint Meeting と共催で、カナダのケベック(Quebec City Convention Center)にて開催されます。会長は Jagdish Butany です。

情報提供：伊藤 喜久 先生
(WASPALM アジア地区担当理事)

【第19回日本臨床検査専門医会春季大会報告】

第19回日本臨床検査専門医会春季大会は、平成21年6月13日(土)、富山国際会議場にて開催されました。充実したプログラムが生まれ、活発な討議が展開され終了しました。

第19回日本臨床検査専門医会春季大会プログラム

9:00～9:05 大会長挨拶 北島 勲(富山大学)

9:05～10:35 シンポジウム 心循環器系検査の最前線

司会 谷口 信行(自治医科大学)、高木 康(昭和大学)
血管病時代の検査学構築

丸山征郎(鹿児島大学)

心原性塞栓症の予知と臨床検査

井上 博(富山大学)

心循環器系生化学検査の最前線

石井潤一(藤田保健衛生大学)

10:40～11:40 特別講演 I

司会 渡辺清明(東京臨床検査医学センター)

漢方医学における「証」の科学的解明を

目指したプロテオミクス解析

済木育夫(富山大学)

11:45～12:45 ランチョンセミナー

司会 尾崎由基男(山梨大学)

血小板由来マイクロパーティクル

(platelet-derived microparticle, PDMP) の臨床応用

山崎雅英(金沢大学)

12:50～13:15 専門医会総会

13:20～14:20 特別講演 II

司会 北島 勲(富山大学)

ES細胞およびiPS細胞を用いた

14:30~16:00 R-CPC

症例提供 野島孝之 (金沢医科大学),
齋藤勝彦 (富山市民病院)
コメンテーター 松尾収二 (天理よろづ相談所病院)

【第26回臨床検査振興セミナー報告】

開催日時:平成21年7月17日(金)14:00~17:00
会場:東京ガーデンパレス
教育講演:新型インフルエンザのパンデミックに備えて
上田 重晴 先生 (財団法人阪大微生物病研究会)
特別講演:医療を崩壊させないために
小松 秀樹 先生 (虎ノ門病院 泌尿器科)

【平成21年度第二回(第34回)総会報告】

平成21年度第二回総会は第56回日本臨床検査医学会学術集
会時に札幌にて開催されました。
会場:札幌コンベンションセンター 1階 特別会議場
日時:8月26日(水) 13時15分~13時40分

報告事項

- 各委員会報告
 - 資格審査・会則改定委員会
 - 情報・出版委員会
 - 教育研修委員会
 - 渉外委員会報告
 - 保険点数委員会
- 会長・監事選挙の公示 (詳細は下記参照)
- 第20回および第21回春季大会の案内 (詳細は下記参照)
- 平成21年度中間決算および平成22年度予算案について
上記については11月10日開催の臨時総会にて提示
- 新たなワーキンググループ(WG)の立ち上げ
 - 一般向け有料検査相談WG (委員長:村田 満 常任幹事)
 - 専門医数増加方策検討WG (委員長:木村 聡 全国幹事)

審議事項

第一号議案:臨時総会の開催について
詳細は上記【平成21年度の行事予定のお知らせ】参照
第二号議案:要覧について
現状の氏名、会員番号、専門領域に加え、
所属、所属住所、郵便番号、所属の電話番号、所属のFAX
番号は原則として記載する。
Eメール・アドレスに関しては記載の諾否を確認する。
発行は隔年とし、日本臨床検査医学会の会員名簿非発行年に
発行する。
第一号および第二号議案は承認されました。

講演会報告

第二回総会に引き続き講演会が開催されました。
日時:8月26日(水) 13時45分~14時45分
保嶋 実先生 (弘前大学)の司会により、濱崎直孝先生
(JCCLS 会長, 長崎国際大学), 高木 康先生 (JCCLS 副会
長, 昭和大学)に、「標準化における臨床検査専門医の役割」
をテーマにご講演いただきました。

【日本臨床検査医学会主催 第26回臨床検査専門医認定試験結果】

平成21年8月1日、2日に、日本臨床検査医学会主催の第26回
臨床検査専門医認定試験が慶應義塾大学病院でおこなわれ、
15名(うち日本臨床検査専門医会会員14名)が合格いたしました。
合格おめでとうございます。今後のご活躍を期待します。

(50音順/敬称略)

今井 康文 井村 穰二 植田 光晴 尾本きよか
覚野 綾子 紀野 修一 佐藤 麻子 佐藤 忍
清水 力 中野 晃伸 中村 靖司 馬場 俊暁
春木 宏介 松永 彰 湯地晃一郎

【第20回および第21回春季大会について】

第20回日本臨床検査専門医会春季大会
大会長 大田俊行 教授
(産業医科大学病院 臨床検査・輸血部)
日時:平成22年6月4日(金)、5日(土)
場所:北九州国際会議場
(福岡県北九州市小倉北区、JR小倉駅から徒歩5分)

第21回日本臨床検査専門医会春季大会
大会長 諏訪部章 教授
(岩手医科大学医学部 臨床検査医学講座)
日時 平成23年6月10日(金)、11日(土)
場所 アイーナ
(いわて県民情報交流センター、<http://www.aaina.jp/>)
備考 この日は市内を馬に乗った子供たちが市内を練り歩
く盛岡名物「ちゃぐちゃぐ馬コ」
(<http://www.vill.takizawa.iwate.jp/chag>)が開催されます。

【会費納入について】

今年度も残り3ヵ月を切りましたが、本年度会費をまだお支
払い頂いていない先生もいらっしゃいます。会費未納の先生
は、至急お振込ください。
なお、振り込み用紙をなくされた先生は、
年会費1万円
郵便振り込み口座:00100-3-20509

日本臨床検査専門医会事務局
までお願いいたします。また、ご自身の振り込み状況が不明
な先生は、事務局までE-mailまたはFAXでお問い合わせく
ださい。

【住所変更・所属変更に伴う事務局への通知について】

最近、住所・所属の変更にもなって定期刊行物、JACLaP
WIREなど電子メールの連絡が着かなくなる会員が多くなっ
ています。
勤務先、住所およびE-mail addressの変更がありましたら必
ず事務局までお知らせ下さい。
勤務先、住所の変更は、本年度会費の振り込み用紙に記載す
るか、できればホームページから会員登録票をダウンロード
してそれに記載しFAXあるいはE-mailでお送りください。

第 19 回日本臨床検査専門医会春季大会総括

さる平成 21 年 6 月 13 日土曜日、富山国際会議場におきまして、第 19 回日本臨床検査専門医会春季大会を開催させて頂きました。5 月中旬からの新型インフルエンザが北陸にも押し寄せるのではないかと冷や汗をかきながらの準備でしたが、このような厳しい情勢の中、遠方にもかかわらず 81 名のご参加を頂くことができ、無事開催することができました。厚く御礼申し上げます。

50 年に 1 度もいわれる金融危機からなかなか脱出できない状況が続いております。しかし、医療を取り巻く環境も激変する中におきましても、良質な検査情報を国民に提供し続けることが臨床検査医の使命と考えており、第 19 回の本会では、その理念に基づき、検査専門医相互の最新の検査情報を議論できる場にしたいという思いが強くなりました。さらに、将来の検査医を育成するという本会の使命も鑑み、R-CPC では医学生や研修医に症例提示や議論に参加してもらうという試みを行いました。これは、若い医師や学生に検査の重要性を再認識してもらい、さらに臨床検査医の役割について理解してもらいたいという意図からの企画でありました。

臨床検査という幅広くかつ奥の深い領域を 1 日で網羅することは不可能ですので、テーマを絞らせて頂きました。午前 9 時から「心循環器系検査の最前線」というシンポジウムで幕を開きました。鹿児島大学大学院血管代謝病態解析学教授丸山征郎教授から、血管を検査する時代の到来に見合った新しい末梢血管機能検査法を紹介して頂き、血管を統括的に検査する Vascular Lab 構築の重要性を紹介して頂きました。富山大学大学院医学薬学研究部内科学第二 井上博教授から、非弁膜症性心房細動による心原性塞栓症の重要性とその前向き研究から D ダイマーが脳梗塞予知に有効であるというデータをお示し頂きました。最後に、藤田保健衛生大学医学部臨床検査科 石井潤一先生から、心循環器系生化学検査の最前線という演題で、NT-proBNP、心筋トロポニン T、シスタチン C の個々の検査の重要性とこれらを組み合わせることによる急性冠症候群と慢性心不全の診断能向上についてのお話を伺いました。心循環器系領域のわが国を代表するエキスパートだけあって非常に内容のある聞き応えのあるシンポジウムであったかと思います。

特別講演を 2 題開催いたしました。まず、富山での開催という特徴も考慮し、「漢方医学における「証」の科学的解明を目指したプロテオミクス解一マルチマーカーの探索」という演題で、富山大学和漢医薬学総合研究所所長 濟木育夫教授にご講演をお願いしました。漢方薬の薬効を科学的に解明するというテーマは、富山大学が 21 世紀 COE プログラムに採択（平成 15 年～19 年）された課題であり、その成果の一端を示して頂きました。富山県出身のノーベル賞受賞者田中耕一氏の開発した MALDI/TOF-MS を組み合わせた新しいタイプの SELDI/TOF-MS を用いて関節リウマチ患者の桂枝ブクリョウ丸治療前後の血漿より、プロテオーム解析の結果を披露して頂きました。次に、京都大学再生医科学研究所・幹細胞分化制御研究領域准教授 山下 潤先生より、「ES 細胞および iPS 細胞を用いた新しい心血管分化研究」というタイトルで講演を拝聴しました。山下先生は、マウス ES 細胞から心筋細胞の新しい分化誘導法を開発した新進気鋭の再生医学研究者です。最近、山中教授と同じ研究所でヒト iPS 細胞の心筋分化にも取り組んでおられ、再生医療の目覚ましい進歩と医学・医療への貢献について会員一同、目から鱗という感じがしました。また、金沢大学医学系研究科血液内

科講師 山崎雅英先生から、「血小板由来マイクロパーティクル(PMDP)の臨床応用」という演題でランチョン・セミナーも開催しました。PMDP が ELISA により測定できるようになり、抗リン脂質抗体症候群のうち動脈血栓症例診断に有用であることを示して頂きました。

最後に、富山市民病院中央検査部部长 齋藤勝彦先生と金沢医科大学大学院病態診断医学 野島孝之教授にご尽力頂き、R-CPC を 1 題用意いたしました。意識障害の出現した末期腎不全の 1 症例を富山市民病院より提示頂き、「高齢者で長期透析療法を受けている方の意識障害がなぜ発症したのか」また、「基礎疾患に何があるのか」という難題に対して、富山大学医学部 6 年生や臨床研修医がチャレンジしました。とくに、天理よろづ相談所病院臨床病理部部长 松尾収二先生には、コメンテーターとして臨床検査専門医としてのアプローチと検査値の考え方につき、ご指導いただきました。心より深謝申し上げます。基礎疾患は、遺伝子検査により「先天性シトルリン血症」というまれな病気であることが示され、なぜ高齢までは発症しなかったのか、このような疾患は検査からどのようにアプローチすればよいのかなど、閉会時間を 30 分あまり延長するほどの白熱した議論が会場で交わされました。終了後、参加した学生さんから「臨床検査医学って奥が深く、すごいですね。非常に興味が湧きました。」という感想が聞かれました。

お陰様で天候にも恵まれ、大会前後に、黒部溪谷や北アルプス観光をされた方から「富山の自然は素晴らしかった」という声や前日の懇親会でも「富山の酒と魚が旨かった」という感想を頂き、われわれも肩の荷が下りてほっとしております。これもひとえに、ご参加頂きました先生方、ご講演ならびにご司会の労を賜りました先生、そして関係者の皆様方のご協力と援助の賜物と存じます。この場をお借りしまして厚く御礼申し上げます。

(富山大学大学院医学薬学研究部
臨床分子病態検査学 北島 勲)

標準化における臨床検査専門医の役割

我が国では、多くの関係者が臨床検査標準化の必要性を認識し長年に亘って標準化への努力を続けてきた。その結果、主要な検査項目についての測定値はかなりの程度まで標準化されており、国際会議などで日本の臨床検査標準化の現状を紹介すると感嘆の声を聞くことが多い。これは偏に、日本医師会、日本臨床衛生検査技師会（以下、技師会）や都道府県別に行われている精度管理調査など臨床検査関係者の長年にわたっての努力の賜である。このような成果を礎にして、この数年は、年間を通して恒常的で系統的な全国規模の精度管理を目指す試みが、日本臨床検査標準協議会 (JCCLS) と技師会 (JAMT) を中心にして行われている。この試みは、インターネットを利用して各臨床検査室の内部精度管理成績がそのまま外部精度管理（検査値の標準化・互換性の確保）に利用できるようにする試みにもなっている。

臨床検査医学とは、“病気の診断、患者の経過観察、治療、予防のための臨床検査に関する学問”であり、臨床検査専門医は、検査室で測定された検査結果を系統的、総合的に判断して、個々の患者の経過観察、治療、予防のために臨床家にデータを提供する役割がある。これまでは、全国規模での臨床検査標準化が進んでいなかった関係で、このような役割は、全国的普遍的ではなく各病院内に限られた情報になっていた。しかしながら、前述の活動の成果で主要検査 27 項目では、全国的な検査室間の CV% がほぼ 10% 以内に収束し

てきているので、患者の経過観察、治療、予防のための普遍的なガイドラインが作れる状態になりつつある。その端的な例が、メタボリックシンドローム予防のための特定健診・特定保健指導である。この特定健診で採用されている検査項目はその測定値が全国規模で十分に収束しているため、検査データを基準にして各個人の階層化・保健指導が可能になっている。

臨床検査専門医は、それぞれの地域・施設で臨床検査関係者の指導的な立場として、臨床検査の標準化に貢献していただき、その成果を基にして、臨床検査データベースの構築に努力していただくのがその使命ではないかと考える。ヒト遺伝子に関する情報が有効に利用できるようになり、遺伝子多型と疾病との関連や、その個人の体質に合った治療（テーラーメイド医療）が謳われているが、医療の現場でそれが有効に利用されている事例はまだ限られている。その一つの理由は、臨床検査測定値が標準化されていなかったことが考えられる。Genotype（遺伝子情報）と Phenotype（臨床検査情報）とが融合しないとテーラーメイド医療は有効に機能しない。臨床検査標準化整備の意義は、医療の標準化だけではなく、新時代の医療のためにも必須の事項である。この領域での臨床検査専門医の活躍を大いに期待している。

日本臨床検査標準協議会 (JCCLS)
濱崎 直孝・高木 康

日本臨床検査専門医会 第 26 回臨床検査振興セミナー報告

従来、振興会セミナーと題し毎年 7 月に行っていた勉強会は、会則の改定を機に本年から「臨床検査振興セミナー」と改名し、7 月 17 日（金）午後 2 時より、湯島の東京ガーデンパレスで開催された。

会則上、振興会員に代わり設けられた賛助会員を対象とした正会員との懇親を兼ねた情報交換会も午後 5 時半より行われた。

今回の総合テーマは「現代の医療危機」とし、最初に教育講演として、大阪大学名誉教授で「ビケン」ワクチンで有名な財団法人阪大微生物病研究会 理事の上田重晴先生に、タイムリーな演目「新型インフルエンザのパンデミックに備えて」にて、インフルエンザウイルスの基礎とワクチンの臨床についてご講演頂いた。臨床検査に携わる者として知っておくべきインフルエンザに対する正しい知識が習得できたと思う。

次に、ミリオンセラー『医療崩壊』の著者 虎ノ門病院泌尿器科部長の小松秀樹先生の特別講演「医療を崩壊させないために」を拝聴した。現代社会の社会システム間の齟齬が招いた我が国の医療の崩壊の危機に際し、どのように医療を再生させるかについてのご講演であった。衆院選前でもあったため、民主党が政権を取った場合の日本の医療についてや、教育講演でも取り上げたインフルエンザについても、医療行政面からみた我が国の対応について等興味深い話題が次から次と話され、医療に携わる者としての認識を新たにし、他人任せの政治ではこれからの日本は医療だけでなくいろいろなものが崩壊していくのではと、気を引き締める必要性を感じた。

今回からは賛助会員各社 1 名を無料招待とし、追加 1 名につき 4000 円の参加費とした。賛助会員の参加は 40 社中 19 社 計 52 名を数え、正会員 10 数名を加え 70 名前後の聴衆が会場をうずめた。情報交換会では、講師の 2 名の先生を含め、今年から事務局を担当してもらっている藤本女史を加え、大勢が活発にディスカッションを行った。

次回、平成 22 年 7 月 (22 日) 開催予定の臨床検査振興セミナーには、ぜひ賛助会員会社は最低 1 名の参加者を出して欲しい。また臨床検査医ももっと数多く出席されることを望む。

渉外委員長 佐守友博

【会員の声】

健康な未来を構築するために

2006 年に朝食に水とバナナだけを摂取する朝バナナダイエットがインターネット上に出現した。以来、健康ブームを追い風にして次第に日本全国に広がり、How to 本が多数出版され、マスコミに取り上げられ、2008 年にブレイクした。人々はスーパーマーケットの開店と同時にバナナ売場に殺到し、バナナが市場から消失した。朝バナナダイエットと入力しヤフーで検索すると一瞬にして 653 万件がヒットした。壮絶なる健康志向である。日本の健康食品ブームの始まりは 1975 年の紅茶きのこからだろう。血圧が下がり、血糖が下がる、体重が減ったなどの効能が謳われ、各家庭でこの茸が培養された。その後、ヨーグルトきのこやナタデココ、りんご、キャベツ、黒酢、納豆、ビール酵母、ココア、寒天など、数多くの健康食品がブームに乗った。

これらの「健康食品ダイエットの売り」は、1) 我慢しない、2) お金をかけない、3) 時間をかけないことで、そこが多忙な毎日を送る現代日本人に評価されている。ある資料によると約 3 割の人に有効だったとのデータがある。はたしてこれが有意なものかどうか？ 筆者の認識不足かもしれないが、朝バナナダイエットは朝食をバナナ 1 本と水だけで済ませば、その他には食事制限も運動習慣も必要なく、ダイエットできる。目立った食事制限も無く、安価で、バナナの皮をむくだけの時間しかかからない。これだけで健康で美しい体型が得られるなら願ったり叶ったりだ。しかし、どうも都合の良い部分だけが一人歩きしているような気がする。この混乱のもとをたどるためバナナダイエット法のオリジナルを検索した。するとそこでは、「バナナなどの果物を水とともに朝食に摂取する」だけでなく、1) 昼夕には日本食を中心に腹八分目で、2) 間食はケーキやポテトチップなど脂肪分の多い食品を避け、食べるなら和菓子を推奨している。また、3) 睡眠 4 時間程前までには夕食を済ませ、4) 夜食は摂らず、5) 夜更かしはしない、6) 運動は息抜き程度のものを行う となっている。これならバナナダイエットもある程度納得できるのではないだろうか？ つまり、「ダイエットの売り」を強調するあまり、偏った知識が一人歩きし、それを静止することもなくブームにしてしまうのが現代日本人の考え方になっているように思われる。

このような偏った知識の是正を医療者が自信を持って発信しなければならない。日本は世界第一位の長寿国であり、それが医療により支えられていることは喜ばしいことだ。日本人の食生活が世界に認められたことをもっと誇るべきであろう。しかし、現代人は健康からかけ離れた生活をしていることに、焦りを感じているように思われる。今は日本人の生活習慣を振り返り、現代社会に順応できる新しい食文化、生活様式を模索していく時期になったのではないだろうか。

メタボ検診をはじめ、様々な臨床データが簡易に入手できるようになったのも新しい生活様式である。我々臨床検査専門医はこれらを受診者にわかりやすく説明する通訳としての責務を果たさなければならないと思う。正しい生活習慣を通じて、それが日本の未来の明暗を分けるほど大切であることを

一般に向けて発信し、健康な社会を築いていかなければならない。

生活習慣病には動脈硬化はもちろんのこと、環境ホルモンや公害による腫瘍発生、アレルギー病や感染症などが問題となっている。臨床検査専門医は臨床へのサービスとして臨床検査データの解釈や腫瘍マーカーの解釈は勿論のこと、遺伝子診断や分子標的療法の選択や可能性についても情報提供すべきである。病院内にとどまらず、医療福祉を通じて子孫のために健康な社会を築いていく責務が与えられていると考える。

今回、日本臨床検査専門医に認定いただき、このような気持ちを変えて実感し今後の研鑽に励みたいと思っています。自分にできることをコツコツと始めるつもりです。よろしくお願ひいたします。

(山梨大学医学部人体病理学講座 山根 徹)

会員の声

みなさん、初めまして。自治医科大学臨床検査医学に所属しております、鯉淵晴美と申します。ここにこうして自己紹介できるのを光栄に思っております。

自治医科大学附属病院では、超音波検査を臨床検査医学のスタッフが担当しています。臨床検査医学のスタッフは超音波検査を中心とした生理検査系と検体検査系に分けられています。私は主に超音波検査を担当しており、頭部エコーから下肢静脈までまさに頭のとっぺんから足の先まで多岐にわたる部位の検査を行っております。

私は大学卒業後 3 年間自治医科大学附属病院小児科に勤務し、患者さんに侵襲のない超音波検査に魅力を感じ臨床検査医学教室にやってきました。当初は超音波検査「しか」していませんでしたが、せっかく臨床検査医学教室にいながら検体検査がわからないのでは・・・と思い、検体検査系の研修をさせていただき、今年臨床検査専門医試験に合格しました。

検体検査の研修をしていて疑問に思ったことがあります。それは「臨床検査医とはなんぞや」ということです。各セクションにはその検査のエキスパートである技師さんがおり、技師さんから臨床の先生へ適切な検査結果を返します。臨床の先生は検査内容に疑問があるとそのセクションの技師さんに質問をします。しかし技師さんからは「このような問い合わせがあった」ということを臨床検査医側には伝えられませぬ。検査と臨床の間に「臨床検査医」が入り込む余地がないような気がしたのです。

そこで私は検体検査研修中に技師さん達に「私は検査に役に立つ臨床検査医になりたいと思っていますが、それはどんな医師だと思いませんか？」と尋ねてみました。その中からいくつかあげてみると「(技師の)勉強会に参加して、医師の

立場から意見を言ってもらいたい」「技師と臨床医の橋渡し役になってほしい」「(生理機能から)トレッドミルを今は循環器内科の医師がやっているが、それを臨床検査医にやってもられないか」などでした。

そんな技師さん達の要望に答えるべく、技師の勉強会には毎回参加し(意見はあまり述べませんが、というか求められません。)、骨髄検査でちょっと変わった症例があったとき、技師さんを誘って血液内科の先生とディスカッションをしたりしました。しかし、勉強会にはなるべく参加するようにしていますが、臨床の先生とのディスカッションは本格的なものでは 1 例にとどまりました。「なんか違う。臨床検査医の仕事はこのようなものではない。」そんな気がしたので。なにか居心地の悪さを感じたのです。

生まれたての臨床検査医のひよっこは、「臨床検査医とはなんぞや」と毎日もがき苦しんでいます。みなさまのご指導をいただきたいと思っています。

これをもちまして、自己紹介のご挨拶とさせていただきます。今後ともよろしくお願ひ申し上げます。

(自治医科大学臨床検査医学 鯉淵 晴美)

【編集後記】

このところ新型インフルエンザが猛威をふるっており、医療機関によっては対応に苦慮されているところがあると報道され始めました。重症化されている方も散見され、今後の状況は予断を許さない状況がしばらく続くことになりそうですが、私たちができることを全力でしたいと思っている毎日です。

JACLaP News に関してですが、私が担当になってから約 1 年が無事過ぎました。これも先生方のご協力があったのことに感謝しております。特に、今回の JACLaP News は、春季大会の総括、総会講演会報告や臨床検査振興セミナー報告などをご担当の先生におまとめ頂き、すばらしい内容となっております。会員の声に関しては、この 1 年を通して、新たに検査専門医になられた先生方を中心としてご執筆いただきました。先生方の多岐にわたるご活躍を、目の当たりにできるものとなっております、大変貴重な文章を拝見することができました。私の不手際により早々と執筆いただいているにもかかわらず、記載時期が遅れてしまったことをお詫び申し上げます。

今後も、新規に検査専門医になられた先生だけでなく、すべての検査専門医の先生方に「JACLaP News 会員の声」ご寄稿のお願ひいたしますので、ご多忙のところ大変恐縮ですが、何卒ご理解とご協力をよろしくお願ひ申し上げます。

(編集主幹 東京大学医学部附属病院検査部 金子 誠)

日本臨床検査専門医会

会 長：渡辺清明、副会長：熊谷俊一、渡邊 卓

常任幹事：

庶務・会計 佐藤尚武、情報・出版委員長 矢富 裕、教育研修委員長 宮地勇人、資格審査・会則改定委員長 土屋達行、渉外委員長 佐守友博、保険点数委員長 渡辺清明、臨床検査専門医在り方委員長 村田 満

全国幹事：市原清志、今福裕司、大谷慎一、康 東天、木村 聡、熊坂一成、小出典男、犀川哲典、三家登喜夫、館田一博、橋本琢磨、

藤田直久、前川真人、松野一彦、満田年宏、宮澤幸久、保嶋 実、山田俊幸

監 事：高木 康、水口國雄

情報・出版委員会 会誌編集主幹：池田 均、要覧編集主幹：木村 聡、会報編集主幹：金子 誠、情報部門主幹：今福裕司

日本臨床検査専門医会事務局

〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台 2-1-19 アルベルゴ御茶ノ水 505

TEL・FAX：03-3293-5221 E-mail：senmon-i@jacp.org